



ボード会議
外部評価としてのまとめ

東京大学先端科学技術研究センター ボード会議
2019/02/27

平成31年2月27日

東京大学先端科学技術研究センター

平成30年度に係るボード会議

○平成30年度に係るボード会議の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価の項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5

II. 評価の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

○平成30年度に係るボード会議の内容

東京大学先端科学技術研究センター（先端研）のボード会議は、運営状況を常時把握し、運営全般に対する助言及び評価を行っている。また、次期所長候補を選考する。

本年度は、下記の日時において会合を開催した。また、当日ご欠席のメンバーについては、日時を改め助言および評価を得た。

日 時：平成30年11月21日（水） 15:00～18:30

場 所：先端研13号館109会議室

出席者：以下のとおり。

【ボードメンバー（50音順、敬称略）】

氏名	所属	職名
大隅 典子	東北大学	副学長
小泉 英明	(株)日立製作所	名誉フェロー
小松崎 常夫	セコム(株)	顧問
西村 陽一	(株)朝日新聞社	常務取締役
晝馬 明	浜松ホトニクス(株)	代表取締役社長
増田 寛也	(株)野村総合研究所	顧問
武藤 敏郎	(株)大和総研	名誉理事
宮野 健次郎	物質・材料研究機構	フェロー

【先端研】

氏名	所属	職名
神崎 亮平	生命知能システム分野	所長、教授
中村 尚	気候変動科学分野	副所長、教授
近藤 高志	高機能材料分野	教授
小泉 秀樹	共創まちづくり分野	教授
高橋 哲	光製造分野	教授
石北 央	理論化学分野	教授
牧原 出	政治行政システム分野	教授
熊澤 鉄也	事務局	事務長

欠席されたメンバーとの面談日時は、次のとおり。

12月7日(金)14:15-14:45 小林 喜光／(株)三菱ケミカルホールディングス 取締役会長

1月11日(月)9:30-10:00 大西 隆／豊橋技術科学大学 学長

○平成30年度に係るボード会議の内容（会議議事次第・内容）

◆5:00-16:35 第1部 所長候補選任

先端研内規の規定により、大隅委員が所長より議長に指名され、就任した。第1部は、所長候補の選任であり、慎重審議の結果、神崎亮平教授を所長候補として選任した。神崎亮平教授は再任である。

◆16:50-17:50 第2部 事業報告（所長プレゼン）

先端研所長の神崎亮平教授より、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、平成30年度における先端研の事業活動について、説明を行った。内容としては、研究力の強化、多様性ある人事戦略、財政基盤の強化を中心とした。研究力の強化として、先端研として新規分野である、グローバルセキュリティと宗教、インクルーシブ・デザイン・ラボ、地域共創造リビングラボなどに取り組んでいることを説明した。人事戦略としては、高い流動性を発揮し若手の人材を確保するための「若手アライアンス」事業が実施され、新しいラボも開設されたことを説明した。財政基盤としては、社会連携研究部門の設立による資金の獲得状況を解説し、先端研は継続的に、東京大学内においても高い外部資金の確保を実現できていることを説明した。

◆17:50-18:30 第2部 事業報告（質疑応答）

大隅委員が議長となり、各委員から助言・意見をいただいた。多岐にわたり多くの意見・助言があり、「外部評価」としてまとめ分析することができた。

◆18:30-19:00 ラボ視察

会議の終了後に、ボード委員による研究室の見学を実施した。なお、この見学には会議に欠席された大西委員も参加された。見学した研究室は、若手アライアンス事業のために新設された生命・情報科学のラボであり、谷内江准教授、太田准教授、大澤特任准教授よりプレゼンを受け、各委員との質疑応答があった。

◆19:00-20:00 懇談会

ボード会議委員および先端研教職員による懇談会を開催した。若手アライアンスの谷内江准教授、太田准教授も参加し、議論が活発に交わされた。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価項目

ボード会議メンバーの意見を助言および評価として、つぎの内容としてまとめた。

	項目	テーマ（助言、評価の内容）
1	研究力	(1) 2020年代へ向けた価値の誘発となる研究 (2) 研究成果の Implementation、社会実装 社会連携、自治体連携の強化 (3) 先端研の戦略企画
2	人事体制	(1) 若手アライアンス事業などによる人材開拓 流動性と若手の育成 (2) 多様性ある人材確保 女性教員・外国人教員の採用
3	財務体制・社会連携	(1) 民間資金導入の広報戦略 (2) 社会連携研究部門の活用促進
4	教育	(1) 学生教育 社会人学生の教育の意義
5	その他	(1) URA の配置

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

Ⅱ. 評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価としての観点から、内容を項目別に整理し、次のように分析をすすめた。

分析項目	内容
評価事項	優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの
検討事項	事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの
付帯意見	事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの

1. 研究力

先端研の特徴である学際性、文理融合である研究活動が 2020 年代へ向けて価値を高め、世界、グローバルなレベルで先頭となるべきとの指摘があった。また、先端研として経営戦略の重要性の指摘があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
研究力	地域共創リビングラボ活動などにより、研究ネットワークのハブとなっている。 文理融合、高い学際性が将来に向けて研究の価値を高めている。	2020 年代の世界へ向けて、先端研が誘発・触発することの内容。	世界に向けて先端研が今後の方向性を示すべきではないか。 地方自治体との連携において、先端研の果たす役割は大きい。

2. 人事体制

限られた資源の中で、若手研究者に機会を与える若手アライアンス事業が高く評価された。先端研での多様性ある人事は高い流動性にあることが指摘された。女性研究者の増加に向けて、優秀な女性が率いる研究分野ごと招聘してはどうかとの意見もあった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
人事体制	若手アライアンス事業など、若手研究者への機会提供があること。 高い流動性を保ち、多様性のある人事体制が構築出来ている。	意見なし	女性研究者を増加させるために、女性研究者が活躍する研究分野の招聘をしてはどうか。 先端研でのキャリアがステータスとなり、そのことが他所へ転じた場合に研究者としてのキャリアの発展となれば良い。流動性の高まる、今後の日本社会における人事の在り方を示してはどうか。 海外大学との連携を活かして、人材の国際化、研究者の招聘を進めてはどうか。

3. 財務体制・社会連携

産業界からの支援を得るためには、先端研の持つ価値を戦略的に伝える広報活動が指摘された。社会連携研究部門などの設置をより一層進める事により、社会に開かれた先端研として評価があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
財務体制	社会連携研究部門の設立など社会に開かれている。	民間資金を獲得するための広報戦略。	意見なし

4. 学生教育

先端研に設置された大学院工学系研究科先端学際工学専攻（博士課程）では、社会人の学生への対応がおこなわれ、定員の約半数を社会人が占めている。社会人の増加は社会のニーズの増加を反映しており、先端研の貢献が評価された。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	大学院教育において、社会人学生を多く持つことは、社会のニーズに込えている。	意見なし	意見なし

5. その他

URA の配置や、経営戦略企画室の役割が研究全体のサポート機能を果たしていくことへの期待があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	意見なし	意見なし	URA や経営戦略企画室の役割として、研究体制をよりサポートする Provost のような役割を期待する。